

（午後1時1分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番3、8番 中西君。

〔8番（中西峰雄君）登壇〕

○8番（中西峰雄君）それでは、私の一般質問を始めさせていただきます。

まず、一つ目でございますけれども、橋本駅前整備、広くは区画整理事業についてということでございます。

この事業につきましては、この質問をすることによって、私は何をめざしているかということ、まず最初に申し上げますと、この事業の重大性、本市にとっての重さ、いかに重い事業であるかということ、ここで再度認識していただきたいなということと、大変、私のこれから述べますことは少数意見、少数者の考えであるかもしれないけれども、そういうことにも耳を傾けて考えていただきたいなということでございます。

まず最初に、文明史に見る都市の盛衰、興亡、また全国の事例からして、本市は歴史に何を学び、この事業をしているのですか。といいますのは、もう皆さんご存じのとおり、世界の文明史を見てみたときに、四大文明もそうでございますけれども、いろんな都市が勃興し、隆盛をきわめ、そして没落をしていったという事例がたくさんございます。例えば、シルクロードの都市もそうでしょう。そんな中で、日本の国内におきましても、かつて採炭地として隆盛をきわめました三池、そして夕張等の採炭地、そこは石炭がとれなくなって、採算がとれなくなって衰退をしてござい

ます。夕張に至っては財政破綻をしたということになっていきます。

そんな中で、一定の地域、この紀の川筋、あるいはこの橋本という地域におきましても、地域の中の盛衰、盛んになり、そしてそれが続いていくのか。続いていくところもありますけれども、衰えていくところもあると。それは全国至るところで見られることであります。そういう歴史を踏まえて、この事業をどのように考えているのかということをお聞きいたします。

2番目は、まちにとっての駅とは一体何なのかと。駅の意味、役割が大きく変化しております。橋本駅について言いますと、車がコモディティーになる以前、普通一般の人が使えるようになる以前におきましては、やはり、最も便利な交通手段でありました。遠くに行くときばかりではなくて、例えば、近くの高野口に行く、あるいはかつらぎに行く、五條に行く、河内長野に行くにつきましても、電車を使うのが、汽車を使うのが一番便利な交通手段でありました。

また、物流もそうでございます。私が小さいときを覚えておりますけれども、橋本駅は貨物の取り扱い駅でありました。貨物の引き込み線もありました。人がほかのところに荷物を送るときには、橋本駅に持っていったものです。あるいは、橋本駅で受け取ったものです。今や、その物流の中心はトラック輸送に変わっております。

そんな中で、まちにおける駅の役割、特に橋本駅について言いますと、通勤者のための駅、通勤者や通学者、あるいは交通弱者にとっての駅という役割に変わっていったら

じゃないかなというふうに思うわけです。そのところのお考えをお尋ねいたします。

それと、次の4番にもかかわってくるわけでございますけども、まちの盛衰は、駅が栄えることによってまちが栄えるわけではありません。逆であります。まちが豊かであれば駅にもぎわってくるわけです。

ところが、本市の基本的な考え方は、長期総合計画の中でも、橋本駅前がまちの中心であると。にぎわいの中心でなければならないという位置付けになってございます。ところが、皆さん、果たしてそうなんですか。かつてはそうであったと思います。しかし、今や大型のSCのところが一番にぎわっているんじゃないでしょうか。人は必要に応じて動きます。駅に必要もないのに行きません。私は、これを逆立ちの論理、倒錯の論理であろうというふうに考えますが、いかがですか。

次、4番目、橋本駅前商店街活性化基本計画のアンケートをこの秋にされました。これも、このアンケートって一体何なのかということですけども、私はこの議会で何回か言ったことがありますけども、行政のサービスには値札がついてないんですね。値札がない。プライスタグがない。値札なしに、どうすればいいですかというのを聞くのは、極めて意味のない話であろうというふうに考えるわけです。

具体的に卑近な例で言いますと、私の車は相当のぼろ車でございますが、あなたの車をどうしたいですかと聞かれば、それはさらにしたいですよと答えます。さらにしたいんですけども、それは購入費用を考えて辛抱しておるわけですね。だから、このまちをさわるについて、どんだけの費用がかかるのかと。その費用があれば、ほかにどんなことができるのか。

村上龍の本で、『あのお金で何が買えたか』

と、できるかというような本がありまして、結構売れたんですけども、私は、結構いいテーマというか、題名の付け方やったなというふうに思ってます、何をするときにも、そのお金があれば、ほかにどんなことができるんかなということを考え、その比較考慮の中から、やっぱりこれに一番最初に使おうよと。これは行政だけじゃなくて企業でも一緒ですし、もっと言えば、個人生活の中でも一緒だろうと思うんですよ。いろいろしたいことがある。だけれども財布を考えて、これは辛抱しましょうか、これはやりましょうかという判断を日々の中でしておるわけですね。そういう判断さえもせずに、ここをどうすべきかというようなことをお尋ねになるのは、大変不適切な問い方であろうというふうに思いますので、見解をお尋ねいたします。

次ですが、よく、本社ビルを建てた会社は傾くということが言われます。私は、橋本市にとって本社ビルというのは、この市役所になるわけですけども、でも、ある意味でいいですよと、本市にとっての今の位置付けでいいですよと、本社ビルは駅前になるんじゃないかなと。橋本駅前はまちの中心であり、橋本の顔であるから、これをみすばらしいままにほうっておくことはできない。だから、これは建て替えなきゃだめなんだと。やり替えなきゃだめなんだという考え方に基づいているんじゃないかなというふうに思います。

これをするのに、数億円の費用でできるのであれば私は何も言いません。もう既に、この区画整理事業で何十億円突っ込んでおるんですか。これまで区画整理事業で使ったお金があれば、今回、あるいは以前から、この本会議場で議員諸兄が行政当局に求めておられるいろいろな住民サービスが、ほとんど実現されているんじゃないんですか。今議会も、硬式野球場のお話がされるようでございます

けども、野球場なんかとっくの昔にできてます。このお金があれば。あるいは、中学生の医療費無料化、これもすぐに実現できるでしょう。それだけの事業費を区画整理事業に突っ込んでいっております。

これからもこの駅前の整備に、一体いくらのコストがかかって、そしてそれが何年で完成するのかということ考えたときに、これからも、今も、現在もそうですし、これからも住民の方々から本当に切実な要望、希望のある行政ニーズに対して、ほとんどこたえていくことのできない行政にならざるを得ないのではないのでしょうか。それなら、私は、この区画整理事業というのは、もう既に本市の屋台骨を揺るがしているし、今後も橋本市の屋台骨を傾け続けるであろうというふうに判断しておりますが、いかがですか。

6番目、この事業につきましては、私は、区画整理事業自体が重大な政策判断の誤りであったというふうに判断しております。何のための事業なのかと。担当者の方はもうご存じかと思えますけども、あの川原町周辺にお住まいの方々、貧しいかもしれないけれども、穏やかな、安心した、安定した生活を送っておられました。それをこの事業が始まったがために、突然に立ち退きを迫られ、老後の生活を乱された方々がたくさんいらっしゃいます。私も、何人もそういう方々を存じております。要するに、つつましい庶民の老後の生活をぶっ壊してしまったという以外に、何かあるのでしょうか。

そういう判断の中で言いますと、誤ったことはできるだけ早く撤退をしていくというのは、いつの場合にも言えることではないかなと。確かに、行くも地獄、退くも地獄。撤退も大変難しい課題ではございますけども、その道を模索すべきであるというふうに考えますので、当局のお考えをお聞かせください。

2番目。2番目は、プライマリーバランスについてということで挙げさせていただいておりますが、22、23年度、24年度の、24年度はまだ出ておりませんが、恐らく推定ですが9億円以上、10億円弱の赤字になってございます。これは一体どうしてなのかと。これは一体何を意味しているのかと。そして、このことが、本市の今後の行政運営に何を求めざるを得ないのかということをお尋ねいたしたいと思います。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君の質問項目1、橋本駅前整備区画整理事業に関する質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）中西峰雄議員の質問にお答えをいたします。

中心市街地第一地区土地区画整理事業を実施しております地域は、老朽化した木造の建築物が密集しており、道路、公園、広場などの公共施設が整備されていないことから、緊急車両の進入が困難な上、避難路や避難場所といった防災機能が確保されていないなど、いわゆる密集市街地特有の問題を抱えております。

道路、公園、広場などの公共施設が整備された大規模住宅開発地域とのバランスのとれたまちづくりを進めるために、これらの問題に取り組むには土地区画整理事業が最も有効な事業手段であるとの判断で、平成8年度、事業認可を受け、着手したものであります。

現在も、厳しい財政状況であるんですが、このまちづくりの基本に変更はないものと考えており、今後もその目的を達成するための取り組みは継続しなければならないと考えておりますので、ご理解のほどをよろしく願

いをいたします。

申し上げたように、東北部の住宅団地であるんですが、各戸だいたい4mから5mの道路が、全部各戸に接続しておるという状況でございますし、また、区域にあってはそういう広場なんかもつくられておるわけでありまして。やはり、私はそうした新しい団地と既存の地域との格差を是正するべきではないかなと、そう思っておるわけでございます。

特に、道路の問題であるんですが、古佐田橋本線は、おおよそ1戸を残してほとんど買収できたわけでありまして、2車線の都市計画道路が完成なるわけであるんですが、そしてまた、国道におきまして、あと3戸が未買収で、ほとんど見通し立ってまいりました。このことによって、ふくそうする交通の面から、側道も全部両側へ設置していくという点もでございますし、残されておるのは駅前の橋本駅前線であります。これも2車線の十数メートルの幅員の道路で、歩道も付けて機能を果たしていかなければならない、そう思っておるところでございます。

そういうことで、これからいよいよ駅前の道路の事業に向けて、どのような形になっていくかは今後検討しなければならないと思いますけれども、着手してまいりたい。要は、こうした大きな事業であるので、即刻というわけにもまいりませんですから、やはり、気の長い気持ちで、細く長くでもやることによって最終の完成というものが、やはり見えてくるのではないかな、そうも思っておるところでございます。

そうしたことで、ひとつ厳しい状況で、他の実施しなければならないことは山ほどあるわけでございますが、やはり、優先順位の中では一番上段に乗っておると、私はそう思っておりますので、今後ともよろしくご指導とお力添えをいただきますようお願いを申し

上げ、なお、残余の件については担当参与から答弁をいたさせます。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）橋本市の長期総合計画では、橋本駅周辺を本市の中心拠点とし、都市機能の集約、計画的な土地利用の推進、個性と魅力あるまちづくりの推進を図ることと位置付けています。さらに、橋本市都市計画マスタープランにおいては、土地区画整理事業による地域整備の方針が示されています。

こうした上位計画のもと、本市の土地区画整理事業は、「幹線道路を整備し、活力あるまちを再生すること」、「高密度な住宅街区の細かな街路を解消し、都市防災機能の向上を図ること」、「良好な都市基盤の整備を行うこと」により、緑とうるおいに満ち、安全で快適な住居環境を回復すること」を目的として、昭和60年度に都市計画決定され、平成8年度に事業化され、その後、現在に至るまでに15年余りが経過しましたが、このまちづくりとしての基本に変更はないものと考えており、今後も、その目的を達成するための取り組みは継続しなければならないと考えています。

鉄道駅の、特にローカル駅の社会、経済的役割が近年大きく変化したことで、駅がにぎわいの中心であったことは過去のものとなっています。残念ながら、全国の事例を見れば、地方都市の駅前再生に現状では特効薬は見当たりません。

橋本駅前地区も例にもれず、過去の活力は失われ、活性化に向けての重要な事業であった再開発事業が中止になったことも事実です。しかし、一方で、一層の高齢化社会が進む中、安全、高速、大量性があり、環境にもやさしく、潜在的な需要と供給力を備えた鉄道という公共交通機関の重要性が今後高まってくるとの見方もあります。

橋本駅は南海電鉄とJRの交通結節点であり、和歌山県の、そして本市の玄関口でもあることから、駅の拠点性を生かした地域の形成・発展や、観光振興に寄与できることで、必ずや地域の活性化に貢献できるものと考えています。

休止区域につきましては、議会にも報告させていただいていますが、現在、事業の中止も視野に入れ、さまざまな角度から進むべき方向性を検討しています。しかしながら、土地区画整理という特殊性のある事業であるがゆえに、事業中止は非常に困難な状況にあります。平成25年3月議会には、休止区域の方向性について報告させていただく予定ですが、事業を継続する場合についても、財政的負担を極力軽減する実施方法もあわせて検討を進めているところです。ご理解をお願いします。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

〔経済部長（浦 彰伸君）登壇〕

○経済部長（浦 彰伸君）橋本駅前商店街活性化基本計画のアンケートについてお答えします。

このたび策定しました橋本駅前商店街活性化計画は、平成10年度に策定した橋本中心市街地活性化基本計画をもとに、現況を調査し、市民の意見や活性化の主体となる商店主等の意向を酌み取りながら、できる限り現実性に配慮した内容となるよう検討したものであります。この活性化計画については、本定例議会中の経済建設委員会で報告をさせていただく予定です。

計画を策定するにあたり、現状の駅前についての調査・評価を行い、駅前と駅前商店街の活性化に向けた課題・方向性を明らかにするため、市民に対してアンケート調査を実施しました。アンケート調査は20歳以上の市民、市内商工業者の方を対象とした調査に加え、高校生にも実施しています。調査期間は本年

8月23日から9月20日までとし、市民900通、市内商工業者877通、高校生220名に配布いたしました。回収状況は795通で、回収率39.8%となり、統計的手法を用いる必要サンプル数としては十分な回収数となり、橋本駅前の活性化に関して市民の関心の強さが伺えます。

なお、本アンケートは他の施策と比較、選択するものではなく、また、橋本駅前整備の是非を問うものではありません。橋本駅周辺の現状を把握し、結果を分析することで、駅前活性化に向けた可能性を探ることを目的としていますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君、再質問ありますか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）個々に聞いていくというよりは、これは一つの問題としてお聞きしていきますけども、まず最初に市長からご答弁いただきまして、ありがとうございます。そのときに、答弁の中で、密集市街地の諸問題の解消。それが最も有効な方法であると。区画整理事業が。あるいは、北部との格差の是正ということをおっしゃいました。

私は、密集市街地の諸問題があるというのは十分に認識をいたしております。しかしながら、この区画整理事業につきましては、第一地区、第二地区というふうに分けております。第一地区7.2haです。この7.2haをすべて完成できたとしても、あと半分残るわけですね。これについてはめども立ちません。

それと、密集市街地の諸問題があるのは、橋本地区だけではありません。東家もそうです。あるいは、私の近くにありますが清水もそうかもしれません。だから、ここの問題を一つ解決したから密集市街地の問題がなくなるんだということはありませんし、それと、格差の問題をおっしゃいましたけれども、ここ

に投入されているコスト、事業費用が果たして平等なのかという、私はそうは思いません。第一地区にお金は投じて、第二地区はめども立ちません。東家の旧地区もそうです。東家の旧地区につきましては、旧の大和街道、これは中心の道路であったわけですが、ここの舗装はほったらかしたままです。めども立ってません。下水道さえも入っていません。

それと、もう一点言いますと、この第一地区の区画整理事業の対象世帯数、対象人口は、本市全体の1%に満たしません。コンマ何パーセントです。そこだけにお金を投ずることが、格差の是正ということになるのでしょうか。逆に格差を生み出していくことになるんじゃないでしょうか。

それと、私は、この事業自体がそもそも誤っていると申し上げますのは、区画整理事業が最良の方法であるという認識自体が間違えている。本来、こういうまちというのは、狭いところに密集して住んでいるからこそ、にぎわいがあり、まちが成り立っておったんですよね。ところが、区画整理事業というのはそういう手法ではありません。みんな一旦のいていただいて、そして家賃で入っている人、賃借人には出ていって、また地主に戻ってきてもらうという手法ですから、当然、まちの人は、住む人は減ります。にぎわいを取り戻すのであれば、本来は区画ではなくて再開発事業にするべきであったんです。現に、今できているところを見てください。川原町の周辺。人は増えてないでしょう。減ってますよね。それでまちの再生と言えるんですか。そもそもの認識が違います。

私は、市長に、市長も一生懸命やっていたので、誠に私としては言いにくいし、私自身も少数意見であろうということは重々認識しておりますけれども、この事業が格

差の是正につながっていくというふうに、本当にお考えになっているのでしょうか。あるいは、このまちの再生にとって、区画整理事業が本当に最も有効な手段であったというふうにお考えなのでしょうか。そのところは、私は理解できません。

私は、この橋本駅、よく聞くのは、橋本駅は橋本の顔やからということをお聞きします。これは、言葉が過ぎるかもしれませんが、小局にこだわって大局を過つ、下手な碁打ちのような姿勢ではないかというふうに思っております。というのは、本当に私、せんだって来も、住民の方から地域の環境整備について、いくつかの要望を受けております。これは、例えば1,000万円とか、何百万円とか、そういう細かなものです。ここにご同席の議員諸兄も、住民の方々から、いろんなご要望を受けておられることと思います。特に、市道等の改修、水路の補修等については、切実に望まれております。それでさえも十分に満たすこともできずに、辛抱をお願いしているというのが現状です。

もう一つ言えば、私は本市ぐらいのまちで、独立図書館がないまちというのは恥ずかしいなと思っています。この事業を続けていく限りは、本市が独立図書館を持つということは夢のまた夢になります。そのほかにも、私は前回、前々回も申し上げました、橋本市を本当に豊かにするための積極的な経済政策の展開というようなことも、本当に厳しいことになってまいります。福祉のお金もこれからかかってまいります。いろんな住民ニーズがたくさん要る。その中で、この事業を果たして続けていけるのかと。

手術は病人が死なないようにするものですよ。手術期間が長くなりますと、時間が長くなると、病人が弱ってしまっていて死んでしまうんです。開腹手術というのは、それは1年

も2年もかけてするもんじゃないんですよ。その間に病人は死んでしまうんです。今現状、橋本市のあのまちというのは、そういうことになっているんじゃないでしょうか。

また、この駅前、今の休止区域、駅前地区をさわっていくということになりますと、果たして5年ぐらいで片付く話になるんでしょうか。私はとてもそうはならないと思いますね。みんな死んでしまいますよ。

だから、区画整理事業、確かに退くのも難しい。難しいけれども、やはりそれを模索すべきなんではないでしょうか。何を聞いたかちょっとお答えにいきかもしれませんが、要するに、格差の是正とか最も有効な方法とかおっしゃいましたので、それが本当に市長のご答弁にあるようなことなんでしょうかということのご認識をご答弁願います。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）格差の是正については、とらまえる視点の違いというのも一つあるかと思えます。当時、平成8年に事業認可をとって着手した当時としましては、本市の抱える問題のうちで、こういった密集市街地の解消というのが大きな問題であって、それに一点投入ということでもないですけども、大変な財源を割いて事業着手しようということでしたので、当時の判断としてはそういうことであつたのだろうと。

じゃあ、今現在はどうかということになりますと、やはり問題の本質は変わっておりません。ただ、財政状況が変わっておるという中で、非常に厳しい状況ではありますけども、やはり、当時も今も、そういった位置付けは変わらないのかなというふうに考えております。

それから、区画整理が最も有効な手段であつたかということですけども、これも当時の判断としまして、一般的によく言われる直売

方式の事業、これは、ここに土地を買収させていただいて道を広げていく。当然、家屋も補償させていただいてという格好になりますけども、当然、道の広がった分、立ち退いていただいた方は郊外へ新たな土地を求めてということになりますので、コミュニティを壊す、あるいは持続的なまちづくりができないというところで、やはり、おのおの方々に若干利便性が発生する分、土地は小さくなりますけども、また元に戻っていただいて、再度コミュニティを形成していただくということで、区画整理事業が最も有効な手段であつたというふうに判断したものと考えております。

ただ、議員ご指摘のように、この事業というのは大変な長期間要する、あるいは費用的にも相当市費の負担がたくさん要するということも全部判断の上で、当時立ち上げたものというふうに理解しております。ただ、結果としまして、これは、やはり経験に学ばなければならぬんですけども、時間がたったがゆえに、関係者の皆さまも非常にお年をとられて、それがゆえに想定もしていなかったような、非常にご迷惑をかけたということもあつたでしょうし、それからまた、借家人のお話もされてたんですけども、これにつきましても、借家人は必ず解消するという前提ではございません。あくまで家主とのお話し合いの上でということなんですけど、結果としまして、ほとんどが借家関係を解消なさって、再開発住宅あるいは個人でどこか別のところをお求めいただいて、その結果として、やはりコミュニティがうまく復活できないといった反省すべき点多々あると考えております。

それらの反省点を踏まえて、経費の削減、あるいは事業を進める手法を、今現在検討しておるところでございますので、先行区域で実施しております手法の見直すべき点、あるいは財政状況等も見直す中で、最終的な判断

をしていくことになるのかなというふうに思います。

ちょっと質問にきちっと答えられてないと思いますけども、一応述べさせていただきます。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）答えていただけていないですね。要するに、これは格差の是正と言えるのかということ、答えていただけていないのかなというふうに思いますし、そもそも論から言いますと、この事業の最初の立ち上げ自体が、もうめっちゃくちゃなんですよ。

どういうことかということ、当初、再開発ビルの計画があったときに、この事業は200億円を超える事業費の事業やったんです。200億円を超える事業をするについて、頭金ゼロなんですよね。普通、個人で考えられますかということですか。4,000万円の家を買うときに、頭金ゼロでローンだけで家買うんですか。違うでしょう。だから、河内長野の三日市の再開発と違うんですよね。ちゃんと60億円の頭金をこしらえてかかれておるわけですか。うちは家建て始めてから、さあ金ない、どうしようかですか。そもそも、そのスタートからしておかしい。間違えておる。普通の人の常識では考えられない判断をしてスタートしておる。

商工のこともちょっとお尋ねしたいんですが、これの是非を問うアンケートではない。でも、今回の経済建設委員会の報告には、その案が出て説明されるんですよね。再度お尋ねしますけども、市の行政は値札は要らんとお考えなんですか。これだけじゃないですよ。すべてですよ。すべてのサービスに値札がないんですよ。プライスタグがついてない。その中でどうしましょうかと。それはええようにしてくださいになるんです。普通、個人個人の生活するときに、値段を見ずに買い物す

るんですかと。ね、部長。部長はお金あるから、何ぼそんな高いものでも関係なしにお買いになるんですか。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）経済部といたしましては、今回のアンケート調査、これについては、市街地の商店主だけの調査ではございません。橋本駅を利用しておる方の、駅利用者にも調査をし、駅前の商店街の活性化に向けての考え、どういうふうな施設があれば立ち寄っていただけるのかなというような調査が主体でございます。そういった形の中で、最終的には、やはりお金の問題云々ということ、これは当然考えるべきことでございます。

しかしながら、それを判断する中で、やはり市民が橋本駅、あるいはまた橋本駅前の商店街を利用するにつけて、一体何を求めているのかなというような調査、アンケートが今回の調査業務でございます。それを見た中で、最終的にどういった形で整備をすれば、また橋本駅の商店街を利用していただける一つの手だてになるのかなというような考えも出てきたわけでございます。また、アンケート調査の中にも意見を書く欄もございます。その中に、橋本駅前をどういうふうにしてほしいんだという要望もたくさん出てございます。

しかしながら、今、値札云々の話も出てきましたけれども、やはりそういったことも考えた中で、行政として、商店街あるいはまた駅前付近の活性化に向けて、どういう形で一番整備すれば効率よく、また商店街がにぎわいが取り戻せるのかというところ、取捨選択した中での、今回また12月での経済建設委員会に報告させていただこうかなという考え方でございます。決して、値札を全く無視して、いいことばかりを羅列して、それを全部やるという考えは毛頭ございませんので、よろしく願いいたします。



○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）私が言っているのは、住民に声を聞くときに、値札付けて聞いてくださいよと申し上げているんです。だから、その点について、今後、考え方をまずお聞きしたいのと、それと、前車の轍を踏むという言葉がございませぬ。前車のわだちを踏むという言葉がございませぬ。全国的に駅前を整備されたところが多いです。多いですけども、現実には、きれいにはなってますけども、人がほとんど歩いてないと。店もちらほら開いているぐらいですよというところが多いんですけども、あえて前車の轍を踏みに行かれるのではないかなというふうに思うんですが、そこに本市はどんなことを学ばれて、本市として駅前のにぎわいを取り戻すことができるという判断をされて、今回の基本計画案をつくられたのかお尋ねいたしたいと思ひます。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）先ほどの答えと似たような答えになってしまいますけれども、やはり、市民が一体何を求めているのかなということが、まずありきかなというふうに考えてございませぬ。どんな事業をするにしたらと、橋本駅、また橋本駅前の商店街を利用されておる方の意向と違うような施設整備を考えたところで、これは全く無意味なものだかなというふうに考えておるところでございませぬ。

それと、またアンケートと並行してということでも、やはり商店街の活性化については、行政だけでできるものという認識はしてございませぬ。やはり商店街、あるいはまた商店主らの方々のいろんな活性化に向けての取り組み、一般的にはソフト事業云々というわけになるわけでも、そういった事業も並行してやらない

ことには、今議員がおたのしみとおりの、やはり人通りが少なくなったという結果にならないとも限りませぬ。だから、そういったことも並行して取り組むことによって、街並みを取り戻せるものというふうな考え方をしておるわけでも、

そういった意味合いで、市民、あるいはまた橋本市全体での商工業者、そしてまた学生等とのいろんな意見を聞かせてもらって、また、いろんなコメントも一つ一つ皆読ませていただいた中で、取捨選択一することによってにぎわいを取り戻せるものというふうな考え方の中で、12月中に報告させていただきたいというふうに考えておるところでございませぬので、よろしくお願ひいたします。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）何か奇策でもあるのかなと思ひてお尋ねしたんですよ。その前車の轍がいっぱいあるわけですから、それは踏まんように、当然のことながら考えていただいているものだというふうに判断させていただきませぬ。

最後になりますけれども、具体的に申し上げます。当初、この休止区域を動かすとなりますと、40億円以上の市単のお金が、市単というか、だけではないですけども、市の負担だけで40億円近い費用がかかるというふうにお聞きしておりました。そんな中で、次の質問とも絡んでくるんですけど、財政状況とも絡んでくるんですけど、勝算はお持ちなんかなと。つまり、かかれて、ある一定の期間、患者が死なん期間に手術が終わられる勝算はお持ちでいるんかなと。勝算もなしに突っ込んでいくということになりますと、これは旧日本軍の突撃と一緒にです。玉砕戦法ですよ、ということになります。

それと、だからそれをお聞きしたいのと、最後に、もう一点ただしておきたいのは、こ

の事業を続けていくことによって、橋本市の今後の経営の屋台骨を、今も既にもう揺るがしておるんですけども、なお一層に揺るがしていくことにならないというふうに、本当に考えておられるのか。あるいは、いろんな住民要望がこれから出てきます。福祉のお金も要ります。あるいは、先ほども言いましたように、私は図書館が欲しいなと思っているし、野球場欲しいなと思っている方もいらっしゃいます。そういういろんな住民の要望にこたえていくことが困難な市政になるというふうには、お考えになりませんか。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）財政の問題を私からお答えするのはあれかもわかりませんが、一応、事業課という視点で、大きなお金を今後5年ないし10年使っていくという視点で、ある程度お答えさせていただきたいと思っております。

まず、今、中期、長期の財政計画を、企画、財政、事業課とともにいろいろトライしております。そんな中で、この区画整理事業をどうするかということと、長寿命化計画なる、いわゆるストックの活用ですね。橋梁でありますとか、下水道でありますとか、そういったもの、いわゆる管理にかかる費用、こういったもの、それから新規事業、大きくはこの三つをどう配分して、どのように財政計画を立てていくかというところがございます。ですので、この点につきましては、時間あまり割いてもいけませんので簡単に申し上げますと、今現在、財政負担をかけない範囲で、どこまでどの事業にどれだけ回せるかということをしておりますので、区画整理事業をやるがゆえに、何もかもを無視して財政計画を立てるということにはならんというふうに思います。

それから、勝算なり手法ということなんで

すけども、先ほども申しました、先行区域でやりました手法というのは非常にマニアクで、説明しますと時間がかかりますので、ああいう手法をとりますと非常に長期にわたるし、結果として戻る方が時間もかかるということで、少し別の方法を考えております。

ただし、これは住民の方もご理解いただいて、ご協力いただければはじめて成り立つ手法でございますので、仮にその手法が可能であれば、比較的少ない金額で、それがいかほどかというのが実は大きな問題なんですけども、比較的、これも長期間にわたって継続的な事業の執行も可能ではないかというところで、ただし、これは市の思いだけではどうしてもいきません。現に、今までお待ちいただいた住民の方のご意向もあるでしょうし、その間の家庭の事情、いろいろ個人的な事情もあると思いますので、それも踏まえて取り組んでいきたいということで、その点については、3月に報告させていただく際には、そこまで詳細な報告はできませんけども、あくまで、えいやで進んで、財政を揺るがそうが何しようが区画整理事業を実施するんだと、そういう視点では決して進めませんので、どうぞご理解いただきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）時間がありませんので、あれですけども、本当に、まず一つの認識としては、私は、この事業はそもそも間違えていたというふうに思いますし、長期総合計画の位置付けも間違えているだろうと。そして、商工のほうで活性化基本計画案なるものも、これは駅前がそうあるべきであるというべき論であり、そして、絵にかいたもちに過ぎないのではなかろうかというふうに考えておるということだけ申し上げておきます。

では、次、2番に移っていただきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）次に、質問項目2、プライマリーバランスに関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（森川嘉久君）登壇〕

○総務部長（森川嘉久君）プライマリーバランスについてのおたがしでございますが、プライマリーバランスとは、「地方債元利償還金及び財政調整基金・減債基金の積立額を除く歳出」から「地方債収入と財政調整基金・減債基金の繰入額を除いた歳入」がバランスしていることで、数値がゼロあるいはプラスの場合は、過去の起債の元利償還以外の政策的経費を新たな起債に頼らずに調達でき、持続可能な財政運営が図られるということになります。

本市では、平成22年度、23年度は9億円余りのマイナスとなっており、24年度もそれ以上のマイナスを予想しております。

これは、学校施設では新築や耐震工事等、また、こども園の建設、保健福祉センターの建設、さらに土地開発公社解散に向けての第三セクター改革推進債の発行など、取り組まなければならない重要施策を集中して実施してきたことによるものですが、これらのうち普通建設事業につきましては、起債の発行については元利償還金の70%が交付税算入される合併特例債の活用で、将来の過大な財政負担とならないよう努めているところです。

プライマリーバランスは、平成22年度以降、大型普通建設事業が続いたため、大きなマイナスとなっておりますが、本年度をピークとして、平成25年度以降はマイナスの数値は小さくなり、徐々にバランスがとれていくと予想しています。

今後の市政運営にあたりましては、合併特例債をできるだけ温存し、プライマリーバランスが均衡するよう財源に見合った事業計画

とするため、普通建設事業の抑制に取り組んでいく必要があると考えており、常にコスト意識を持って健全な財政運営に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君、再質問ありますか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）時間がありませんので、短く聞きます。徐々にプライマリーバランスはとれていくというご答弁でございますけれども、プライマリーバランスが均衡するのは、予測難しいと思いますが、いつ頃というふうにお考えでしょうか。

○議長（井上勝彦君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）国の地方財政対策による地方交付税の振り替え措置としまして、いわゆる赤字地方債であります臨時財政対策債の発行も、プライマリーバランスがとれない要因の一つになっているところでございます。この辺も考慮しまして、今現時点、平成28年度には、何とかプライマリーバランスをプラスにやる方向で考えております。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君の一般質問は終わりました。

この際、2時15分まで休憩いたします。

（午後1時58分 休憩）